

つまずきの解消に向けて、 県教委作成の資料を効果的に活用しよう！

本日付で、各学校に「学力定着状況たしかめテストの結果」が返却され、「分析支援ツール」も市町村教育委員会から配付されたと思います。直ちに本ツールを用いて、自校の課題の明確化を図りましょう。

その際、問題冊子と見比べながら、自校の児童が「どこで」「どのように」「なぜ」間違えたのかをきちんと把握した上で、県教委作成の資料を活用して、学校全体でつまずき解消に向けての取組を徹底することが重要です。特に、依然として課題である「割合」の単元の授業改善も図っていきましょう。

国語B問題

必見

平成28年度 学力定着状況たしかめテストの結果を踏まえた

活用に関する問題の解説例

～全国学力・学習状況調査B問題へのアプローチ～

学力調査のB問題には部分点は
ありません。必要な条件を全て
満たして解答しなければ正答に
なりません。多くの子どもたちは、
知識を活用する以前に、問題
に書かれている正答の条件を読み
取ることにつまずいていると言え
ます。

正答率 (%)		無解答率 (%)	
県	全国	県	全国
46.6	71.9	8.8	8.2

「原田さんの疑問」のAの中には、どのような内容が入ると考えられますか。ふさわしい内容を、①から④までの内容をもとにして、十五字以上、四十字以内で書きましょう。

①「原田さんの疑問」のAの中には、どのような内容が入ると考えられますか。ふさわしい内容を、①から④までの内容をもとにして、十五字以上、四十字以内で書きましょう。

例えは、食べ物をつかんで口に運んだり、水をすいあげて飲んだりすることができます。また、すいあげた水をシャワーのようにして浴びたり、鼻をからませ合せてあいさつをしたりすることもできます。このように、ゾウの長い鼻は、生活する上でさまざまなことに役立っているのです。

3
原田さんと野口さんは、校外学習で動物園に行き、ゾウの鼻について下のような「疑問」をもちました。そこで二人は、それぞれの疑問を解決するために、次の「科学読み物」を読みました。

【科学読み物】の下の「原田さんのふせん」、「野口さんのふせん」は、分かったことや新たな疑問を書いたものです。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※「科学読み物」の中の甲についての説明
 〇〇部：分かったこと
 △△部：新たな疑問に関連する部分

【科学読み物】
 鼻にとくちようがある動物という、みなさんはどのような動物を思いかへますか。きつとゾウを思いかへる人が多いことでしょう。ゾウといえば、長い鼻がとくちようの一つです。では、ゾウの鼻はどうして長いのでしょうか。
 大昔のゾウの体は、今のゾウの体よりもずっと小さかったといわれています。鼻も今より短かったのですが、長い年月の間に体がだんだんと大型化し、口が地面からはなれていったようすです。それとともに、鼻は上くちびるが、いっしょに長くのびていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったと考えられています。
 ゾウは、長い鼻を使っているいろいろなことができます。例えは、食べ物をつかんで口に運んだり、水をすいあげて飲んだりすることができます。また、すいあげた水をシャワーのようにして浴びたり、鼻をからませ合せてあいさつをしたりすることもできます。このように、ゾウの長い鼻は、生活する上でさまざまなことに役立っているのです。

【野口さんのふせん】
 ④鼻の短い動物の鼻の役目は？
 ・カバやワニは、鼻を使って何ができるのか。

【原田さんの疑問】
 A
 ①鼻は、今よりも短かったが、体がだんだんと大型化し、口が地面からはなれていったようすだ。
 ②鼻は上くちびるが、いっしょに長くのびていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようすだ。
 ③長い鼻を使うことで、できること。
 ・食べ物をつかむ、水をすいあげて飲む、水浴び、あいさつ。

【野口さんの疑問】
 A
 ④鼻の短い動物の鼻の役目は？
 ・カバやワニは、鼻を使って何ができるのか。

【原田さんのふせん】
 ※「ふせん」…分かったことや疑問などを書いて、本や文章に貼印して付ける紙

【野口さんの疑問】
 ソウの長い鼻は、においを感じ取る
 ことができるのか。

野口さん 原田さん

■初見の文章に対応できる力を付けましょう。

一つの教材を数時間かけて学習した後の単元末テストでは、ほとんどの児童が高得点を取ります。しかし、学力調査等で初めて読む文章への対応に課題が見られます。初目の文章でも、授業で学んだ文の読み取り方等を活用して、問題に臨むことができる力を付けることが大切です。

そのためには、問題文を読みながら、大切だと思われる箇所に線を引くなど、問題用紙に記入してもよいことを指導し、習慣付けることも必要です。

■誤答と正答の間を埋め、正答へ導きましょう。

まず、問題文に目を通してから、問われていることを確認した上で、目的に応じた読み方で本文を読むことができる力を付けることが大切です。

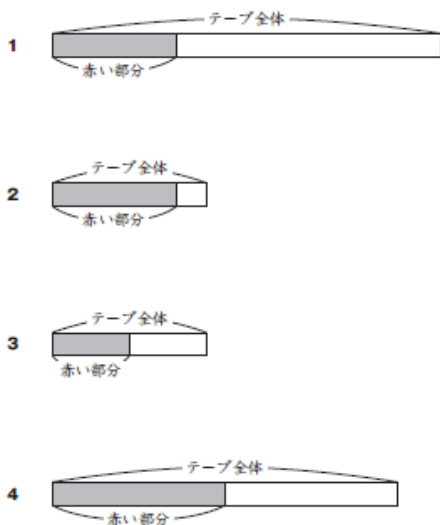
そのためには、児童の誤答を基に「どこで」「どのように」「なぜ」間違えたのかを、教師が明確に示しながら学級全体で確認をし、何をどのように加筆・修正等をすれば正答になるかを解説することが必要です。

■独りで解ききれる力を付けましょう。

学級全体で確認した問題を、独りで解ききれるかどうかを確認します。学習到達度確認テストやふりかえりプリント等を活用しながら、適宜、定着ができていくかどうかを確認します。このサイクルは、B問題だけでなく、基礎基本の問題においても効果的な取組です。

8

次のように、赤い部分があるテープが4本あります。
テープ全体の長さをもとにしたときの、赤い部分の長さの割合がいちばん大きいテープはどれですか。
下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



正答率 (%)		無解答率 (%)	
県	全国	県	全国
71.7	74.4	1.9	2.1

9

バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は、定員よりも20%多いようです。
定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った次の図に表します。



図の中のAとBには、下の4つの数のいずれかが入ります。
AとBに入る数をそれぞれ書きましょう。

20
80
100
120

正答率 (%)		無解答率 (%)	
県	全国	県	全国
44.5	50.9	5.7	5.7

経年的に苦手としている問題で、課題が解消できていない単元です。

系統性を問う出題

4 たしかめテスト5年生算数A

正答率 (%)		無解答率 (%)	
県	全国	県	全国
44.7	55.5	2.2	2.1

テープが3本あります。テープの長さは、次のようになっています。

- ・赤色のテープの長さは 3 m
- ・青色のテープの長さは 6 m
- ・黄色のテープの長さは 12 m

(2) 青色のテープの長さは、黄色のテープの長さの何倍ですか。求める式と答えを書きましょう。

全国学力・学習状況調査の結果等を

必見

算数「割合」の指導のポイント

「割合」に関する学習は、小学校1年生から始まっていることを踏まえ、学校全体で組織的・継続的な指導を行うことが重要です。その際、全教職員で共通理解を図る資料として活用してください！

問題文を読んでも、どれが「もとにする量」で、どれが「くらべる量」か、どれが「割合」かが分からない・・・
だから、式を立てることができないし、図もかくことができない。
どうやったらできるようになるのかなあ・・・

- 問題文から「数量関係を読み取り」
→「図」をかき、「量感」を実感し
→問題文を短い文章でまとめ
→「立式」して「答え」を出す
というステップを踏まえた授業を行うことが大切です。
- 「もとにする量」と「くらべる量」の色を単元を通して統一し、それぞれのステップに応じた指導の仕方を【理論編】と【実践編】を参考にしながら系統的な指導を行い、苦手意識の克服に努めましょう。